

伊東市立幼稚園について

1 市立幼稚園の現状について

(1) 園児数等

市立幼稚園の園児数は、昭和48年度の2,023人をピークに、平成3年度には、858人となり、平成11年度から段階的に開始された3歳児保育により平成18年度には937人となりましたが、その後、増減しながら平成29年度には、554人となっています。

また、園児数の減少に伴い、湯川分園と川奈幼稚園の2園が休園しており、平成30年4月1日付で宮川分園が休園となる予定です。

【年度別の園児数】 (平成30年度を除き各年度5月1日現在)

年度	園児数	園数	備考
平成20年度	900	14	
平成21年度	824	14	
平成22年度	778	14	
平成23年度	763	14	
平成24年度	804	14	
平成25年度	773	14	
平成26年度	706	13	湯川分園休園
平成27年度	672	13	
平成28年度	604	12	川奈幼稚園休園
平成29年度	554	12	
平成30年度見込	463	11	宮川分園休園

(2) 園の規模

平成29年度市立幼稚園を規模別に分類すると、規模の大きな園（園児数100人以上）はなくなり、中規模園が9園、休園となる宮川分園を含め規模の小さな園（園児数27人以下）が3園、となっています。

園の規模などにより、職員一人当たりが保育する園児数も異なり、保育される園児の教育的観点や従事する職員の環境面など、園によって不均衡が生じている現状があります。

【園別の園児数(平成29年度)】 (平成29年5月1日現在)

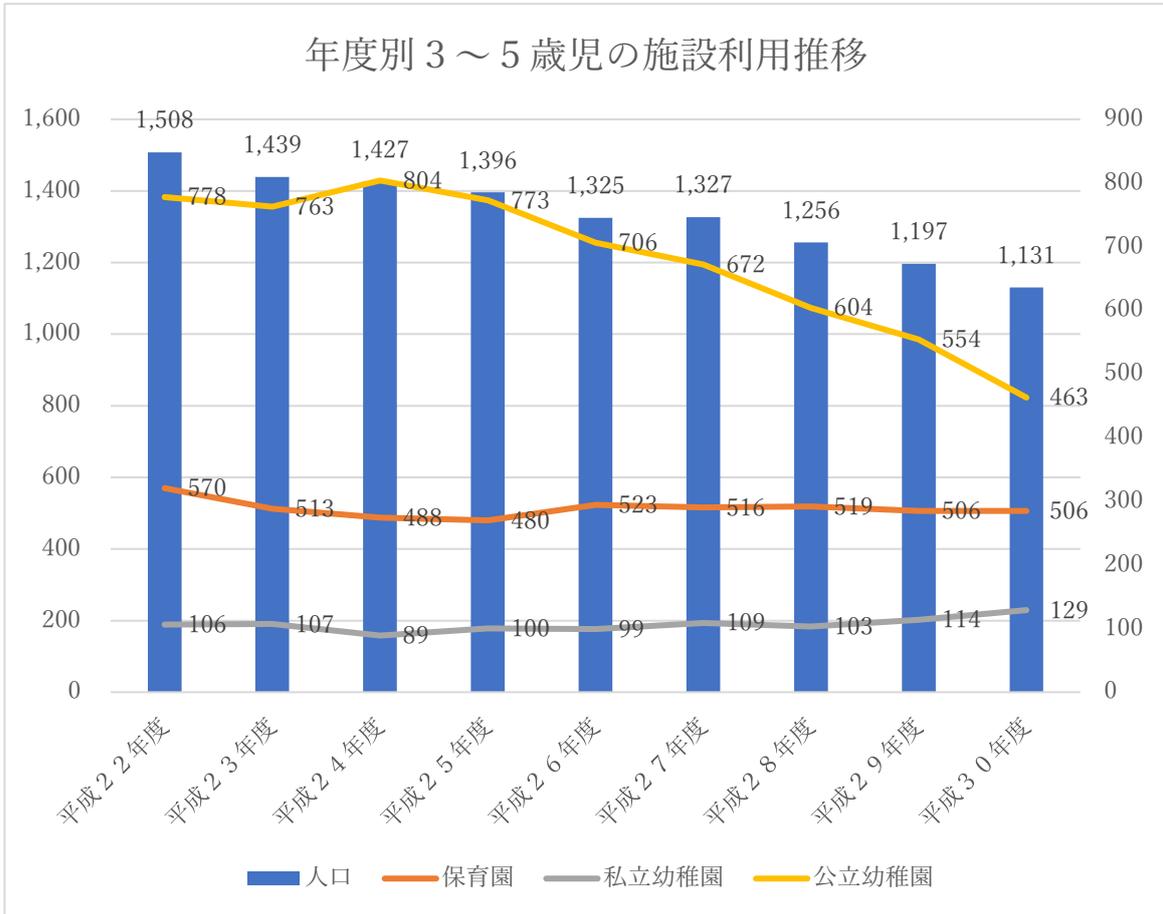
園名	園児数	園名	園児数	園名	園児数
伊東	42	八幡野	78	吉田	49
竹の台	28	富戸	20	荻	65
鎌田	43	池	27	合計	554
宇佐美	56	南	50		
宮川分園	27	富士見分園	69		

2 市立幼稚園の課題について

(1) 園児数の減少

少子化による幼児人口の減少や就労形態の多様化に伴う保育園需要の増大などにより、幼稚園園児数が減少しており、今後もこの傾向は顕著になっていくものと思われます。

特に、平成30年度は、見込みにおいて対前年度比で90人以上の減少となっており、減少傾向が進み、また、地域により規模の格差も広がり、その是正が喫緊の課題となっています。



(2) 臨時講師の確保

幼稚園教諭の産前、産後の休暇や退職職員などを補うための臨時講師について、幼稚園教諭免許更新制度により、勤務していない間に更新せずに失効してしまっている人も数多くいるなど、その確保が年々難しくなっている現状があり、課題となっています。

3 市立幼稚園に関する方針について

平成20年12月22日付の「本市における将来の市立幼稚園のあり方について」伊東市教育問題懇話会の答申に基づく基本的な考え方は、次のとおりとなっています。

- ・ 園児にとって、望ましい教育環境を整えること。
- ・ 伊東市全体の教育環境に、著しい格差(差異)を生じさせないこと。
- ・ 地域の状況、特色、実情を考慮し、地域に配慮すること。
- ・ 本市の行政改革や総合計画の考え方に沿うものであること。